

秋の企画展へようこそ

市立美術館企画展 「藝大に学んだ巨匠たち」

☎25・11111

市立美術館は、空調設備の改修を行うため休館していましたが、十一月十五日から開館します。
また同時に、再開後初の企画展「藝大に学んだ巨匠たち」を開催します。
この企画展では、日本の近代美術に関して国内有数の質と量を誇る、東京藝術大学コレクションの中から、同大が輩出してきた明治・大正・昭和初期を代表する作家たちの、学生および教官時代に制作した貴重な絵画や彫刻作品を取り上げま

す。
さらに、本市の美術界に大きな足跡を残してきた、同大に学んだいわきの作家たちの作品も紹介します。
今回は、国指定重要文化財の「鮭」「花魁」（高橋由一作）、「靴屋の親爺」（原田直次郎作）の三作品も展示されます。
巨匠たちが制作した貴重な逸品の数々を、ぜひご覧ください。
▼会期 11月15日(土)～12月14日(日)
▼休館日 毎週月曜日(ただし、11月24日は開館)、11月25日(火)
※会期中、講演会やアーティスト・トークを開催しますので、詳しくは同館へお問い合わせください。



(上) 高橋由一「花魁」
(下) 原田直次郎「靴屋の親爺」※(上)(下)ともに、重要文化財。東京藝術大学大学美術館所蔵



同日から企画展も開催する美術館

草野心平記念文学館企画展 「米原万里展」

☎83・0005

ロシア語通訳者、エッセイスト、作家として活躍した米原万里の自筆資料や遺愛品などを展示し、米原万里作品の魅力を紹介します。
▼会期 12月23日(火)
▼休館日 毎週月曜日(ただし、11月3日・24日は開館)、11月4日(火)・25日(火)



米原万里©新潮社

勿来関文学歴史館企画展 「あぶくまからも見える富士山」

☎65・6166

昨年、世界文化遺産に登録された富士山。その富士山を見ることが出来る北限が、阿武隈山地にあるのがご存知でしたか。
富士山を描いた絵画や日用品、文学作品などを紹介しながら、あぶくまからも見える富士山に迫ります。
▼会期 11月20日(木)～来年2月17日(火)
▼休館日 12月17日(水)、1月1日(木)・21日(水)



阿部秋風「富士山俳画」(個人蔵)

進んでいます いわきの復興 ⑥

久之浜地区防災拠点施設(津波避難ビル)新築工事に着手

津波によって甚大な被害を受けた、久之浜地区の津波防御策の一つとして、国の東日本大震災復興交付金を活用し、久之浜・大久支所が持つ災害時の「防災拠点機能」と、久之浜公民館が持つ「まちづくり活動拠点機能」を一体化・集約化した、防災拠点施設(津波避難ビル)を整備します。

今般、本施設新築工事の工事請負契約を締結し、工事に着手しました。

今後は、同施設の平成28年3月の供用開始に向けて、建築工事および外構工事を進めていきます。

○整備概要

- ▶敷地面積 2,418.81平方メートル(東側)+322.77平方メートル(西側)
- ▶構造 鉄筋コンクリート造
- ▶階数 地上3階・塔屋1階
- ▶建築面積 841.87平方メートル
- ▶延べ面積 2,212.09平方メートル
- ▶駐車場 北側=17台、西側=13台、南側=身体障がい者対応1台
- ▶避難者収容人数 260人



施設外観のイメージ



津波避難ビルの新築工事に着手(10月撮影)

いわき応援大使の紹介 ⑤



北郷 悟さん
(東京藝術大学理事・彫刻科教授)

今、いわき市では、津波で被災した地域に高さ7.2メートルの防潮堤の建設が計画され、環境に配慮した緑化公園化が進められる。岩間地区には、破壊されて流された防波堤が「震災の記憶」として残される予定だ。芸術の立場から、より豊かな発信する空間づくりを提案している。



高木 譲一さん
(公益社団法人日本技術士会専務理事)

東京生活が長くなっても帰る地はいわき。東日本大震災で「ふるさとに自分は何ができるか?」ということをより考えさせられました。北極調査船の寄港やJAXAの宇宙タウンミーティングなどで、元気な好奇心旺盛な子どもを取り戻せたらと思います。



鈴木 久泰さん
(日本空港ビルデング株式会社取締役副社長)

昨年、わが国を訪れた訪日外国人は1,000万人を超え、今年は1,200万人を超えそうです。2度目以上のリピーターも多く、地方へ行く人も増えています。大きなチャンスですので、他地域にはない、いわきの魅力をPRし、呼び込みましょう。



秤屋 苑子さん
(陶芸家・東日本国際大学東洋思想研究所客員教授)

美しく楽しく永くお使いいただく磁土による陶芸作品の発表活動の仕事に加え、陶土の造形にはじまり、人生の造形力を養う人間力教育のお手伝いを通じて、いわきの文化力向上に寄与したいと考えております。